

6月 16-22 日

格言 18 章

90 番の歌と祈り | 開会の言葉 (1 分) 星延宏 | 米山英行

神の言葉の宝

1. 病気と闘っている人を力づける (10 分) 有川聖七

神の知恵に頼って話す。(格 18:4。塔研 22.10 22 ページ 17 節)

相手の身になって考える。(格 18:13。トピ 記事 19 囲み)

友として辛抱強く支える。(格 18:24。塔般 23.1 14 ページ 3 節-15 ページ 1 節)



考えてみよう「配偶者が体や心の病気にかかったら、どのように支えられるだろうか」。

2. 宝石を探し出す (10 分) 有田悟

格 18:18 くじは論争を終わらせ、強い人たち同士の決着をつける。

聖書時代に、くじが使われたのはなぜか。(洞-1 791) 争点となっている問題に関して決着をつけるためにくじを引くのは古代の習慣です。小石、あるいは木や石の小片もしくは札を、衣のひだの重なったところである“ひざ”や、つぼなどに投げ込み、次いでそれを揺するという方法が取られました。くじが出るか引かれるかして当たった人が選ばれた人でした。くじは誓いと同様、祈りを伴いました。祈りははっきり述べられることもあれば、それとなく述べられることもあり、エホバの介入が要請され、期待されました。くじ(へ語、ゴーラール)は、「分」とか「受け分」という考えを伴う言葉として文字通りにも比喩的にも用いられています。—ヨシュ 15:1; 詩 16:5; 125:3; イザ 57:6; エレ 13:25。

種々の用例 箴言 16 章 33 節は、「くじはひざに投げられるが、それによる決定はすべてエホバから来る」と述べています。イスラエルでは論争に決着をつけるのがくじの正しい用法でした。

「くじは口論をもとどめ、力ある者たちをも引き離す」と述べられています。(箴 18:18) くじは、スポーツや遊びやかけには使われませんでした。かけ事やかけ金また賞金、つまり損をしたり得をしたりということはありませんでした。神殿や祭司を富ませるためにくじが用いられたことはなく、慈善のために用いられたこともありません。それとは反対に、ローマ人の兵士たちは

詩編 22 編 18 節の予告のとおり、イエスの衣のためにくじを引いた時、確かに利己的な益を考えていました。—[マタ 27:35](#)。

今週の範囲からどんな宝石を見つけたか。(格 18:11) に関連した (格 10:15) には同様の「裕福な人の富は要塞」という表現とともに「貧しさによる破滅」についても表現され、それらがその人の想像の中でのことであること教えている。それで経済的な状態にあまり注意を奪われず、この世界の聖書的な飢饉に注意を向けて、できることを行っていきたい。

3. 聖書朗読 (4 分) 格 18:1-17 (教励 第 11 課) 伊藤勇一

野外奉仕に励む

4. 会話を始める 金刺由里子 愛込 2-5 長谷川裕美子

(1 分) 家から家で。外国語を話す人に会う。(愛込 レッスン 2 ポイント 5)

5. 再び話し合う 小島千晴 愛込 7-4 平山優子

(3 分) 公共エリア伝道。用件を手短に言ってほしいと言われる(愛込 レッスン 7 ポイント 4)

6. 再び話し合う 奥村由美 愛込 9-5 高橋節子

(3 分) 日常生活で。神の王国についての大切な真理を教える。(愛込 レッスン 9 ポイント 5)

7. 信じていることを説明する 福永悦子 愛込 5-5 田中麻美子

(4 分) 実演。[イ聖 記事 123](#) 話題: 神は至る所に存在しますか。(愛込 レッスン 5 ポイント 5)

クリスチャンとして生活する

144 番の歌

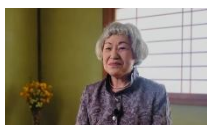
8. 「言葉ではなく」振る舞いによって、エホバに仕えるよう家族や友人を助ける 梅原直行

(15 分) 討議。

一緒にエホバに仕えてくれたらいいのにと 思う人がいますか。それは配偶者、子供、会衆から離れた友達かもしれません。エホバに仕えてほしくて、無理強いしたり無神経な話し方をしてしまったことがありますか。動機は良くても、言い方を間違えると逆効果になってしまうことがあります。(格 12:18 心ない(*軽率な)発言は剣のように突き刺し、賢い人たちの舌は人を癒やす。) どうしたらいいのでしょうか。

ペテロ第一 3 章 1 節には、信者ではない夫が「言葉ではなく.....振る舞いによって、引き寄せられるでしょう」とあります。夫が聖書についての話し合いを拒むとしても、信者である妻には、夫がエホバを知るよう助けるためにできることがあります。振る舞いによって、エホバに倣った愛や親切、知恵を示すなら、夫の心は和らぐかもしれません。(格 16:23 賢い人の心は口に洞察力を与え、話に説得力を加える。) 私たちの振る舞いや快い言葉は、エホバに仕えていない人たちに良い影響を与えます。(コロ 4:6 塩で味付けされた快い言葉を語るように心掛けましょう。そうすれば、誰に対してもどのように答えるべきかが分かります。)

「信仰のために立派に戦っている人たち 夫や妻がまだ信者ではない人」の動画を再生する。次の質問をする。



1. 佐々木姉妹の経験から何を学べますか。

最初に真理を知ったとき嬉しくて気持ちを共有したいと思うあまりに真理を伝え過ぎて心配させたかも。家族のことを思って心配してくれた。会衆のある家族は良く食事とかキャンプにさそってくれた。主人は何気ない親切に喜んでいて、私も感謝していることとか、大切にしていることを言葉でも態度でも伝える努力をした。自分や子供たちが学んだことを生活に当てはめることによって、主人は徐々に真理に関心を持っていった。主人とともに家族でエホバを崇拝できていて、感謝と喜びの気持ちで一杯になる。

2. 井藤姉妹の経験から何を学べますか。

主人は集会に行ったらしゃいと言って協力してくれても、真理に全く関心を示さなかった。「貴方の心を守れ」という聖句を見て、子供たちと自分の心をしっかりとエホバの方に向けておくことを決意した。奉仕で歩く時も創造物を見ながら教えたり、主人が帰って来る時までの間に定期的に神の言葉を教え込んだ。夫は亡くなるまで無関心だったが、今5人の子供が真理の内を歩んでくれていて、本当に祝福だと思っている。

3. 岡田姉妹の経験から何を学べますか。

主人は集会に行かなくなり、会衆から離れた。主人と一緒に楽園に行っているところを思いに描くようにした。絶対に真理から離れてはいけないとそのように感じた。集会に行くときには主人に気遣いの手紙を書いた。必ず真理に戻って来てくれると確信して待っていた。エホバが見捨てられなかったので、主人が戻って来られた。

9. 会衆の聖書研究 (30分) 徹 27 章 23-26 節, 214, 217 ページの囲み (巡回訪問中休み)

閉会の言葉 (3分) | [60 番の歌](#)と祈り 長谷川瑛一

^ ([格 18:1-24](#)) 自分を孤立させる人は自分の欲求ばかり満たそうとし、あらゆる役立つ知恵を退ける*。2 愚かな人は何かを理解したいとは思わず、自分の考えばかり話そうとする。3 悪人が来ると、侮辱も来る。不名誉なことには恥辱が伴う。4 人の口の言葉は深い水である。知恵の泉はほとぼしる水の流れになる。5 悪人をひいきするのも、正しい人を公正に扱わないのも良くない。6 愚かな人の言葉は言い争いを起こす。その人の口は打たれることを求めている。7 愚かな人の口は破滅を招き、その唇はその人をわなに掛ける。8 中傷する人の言葉はごちそう*のようだ。のみ込まれて腹の奥に入っていく。9 仕事を怠ける人は、破滅をもたらす人の兄弟である。10 エホバの名は強固な塔。正しい人はその中に走り込んで保護される*。11 裕福な人の富はその人の要塞。その人の想像の中では防壁である。12 崩壊に先立つのは高慢な心、栄誉に先立つのは謙遜さである。13 聞かないうちに返事をする人は、愚かであり、辱められる。14 強い心は病気の間の支えとなるが、打ちのめされた心*には誰が耐えられるだろうか。15 理解力のある人の心は知識を得、賢い人たちの耳は知識を見つけようとする。16 贈り物によって道が開かれ、重要人物に近づける。17 最初に言い分を述べる人は正しく見える。やがて相手方が来て、彼に問いただす*。18 くじは論争を終わらせ、強い人たち同士の決着をつける。19 気分を害された友人の頑固さは防壁された町をしのぐ。かんぬきの掛かった城門のように互いを隔てる論争もある。20 人が発する言葉は腹を満たす食物のようで、人は言った事の結果を実感する。21 死も命も舌の力に支配される。話すのが好きな人はその結果を刈り取る。22 良い妻を見つけた人は幸せを見つけた。そしてエホバの恵み*を受ける。23 貧しい人は嘆願を述べ、裕福な人は厳しい口調で答える。24 互いを傷つける友人もいれば、兄弟以上の絆で結ばれる友もいる。